

〔重修本草綱目啓蒙十二〕萹蓄

ウシクサ和名マキクサニハクサ共ニニハヤナギミチ

ヤナギ。奥州ミチシバ同上ホウキモドキ備中

一名鐵線草山草類鐵線草註今俗呼ニ萹蓄爲鐵線草蓋同名耳

百節本草藥百節草村家猪牙草本草原始

路傍ニ極テ多シ、苗高サ六七寸或一尺許リ、葉ハ地膚葉ニ似テ短厚ニシテ尖ラズ深綠色、莖ニ節アリ、節ゴトニ互生ス、夏月葉間ゴトニ一花ヲ開ク、大サ一分許、白色ニシテ微紅、形蓼花ノ如シテ穗ヲナサズ、又海濱ニ生ズルモノハ、苗葉共ニ大ナリ、ハマホウキモト云、共ニ春ヨリ生ジ、秋深テ枯ル。

〔廣益地錦抄六〕萹蓄宿根より春生葉柳のごとく、花は見るにたらず、俗に庭柳といふ、田野道邊に多く有、民俗痢疾を煩ふ時、此葉を湯びき、味噌汁に煮て寒晒の粉をねり、團子として煮て食甚妙なり。

〔物類稱呼三植〕牛面艸たそば加州にてかへる草といふ、江戸にて牛のひたいといふ、

〔大和本草九〕牛面草和俗ノ名ナリ、又溝ソバト云、近道水邊ニ生ズ、或牛ノ額ト云、蕎麥葉ニ似テ長シ、又赤地利ニ似テ刺ナシ、葉ノ末尖中セバシ莖葉ハ共ニ柔ニシテ色青シ、葉ヲ生ニテスリテ能血ヲ止ム、性亦赤地利ニ似タリ、

〔廣益地錦抄四〕牛面草田野溝ほりの邊に多くあり、葉形少長ク、中ほどくびれ、眼目のかたちなる紋黒くありて、兩角ある様成葉形にて、さながら牛面に似たりとて、俗にうしのひたいといふ、花は赤ろく小細花、へりにくれないの色あり、つまべにともいふべし、葉をもみて血止めとす、よく止ル、赤めり地に多キ草なり、

〔多識編二蔓草〕何首烏、和名字波加豆豆曾、又云多加土宇、又云比幾於古志、異名夜合、本

〔重修本草綱目啓蒙十四〕何首烏通名

一名夜交藤本草

交莖烏錄